

早生実エンドウ新品種「4-1-1-1-2」の特性

1. はじめに

これまで本誌において紹介してきました実エンドウ育成系統「4-1-1-1-2」は、平成15年1月に「紀の輝」として品種登録出願申請を行いました。本系統は、開花促進処理を必要としない早生品種の育成を目標に、実エンドウ「きしゅううすい」とキヌサヤエンドウ「美笹」を交配して、和歌山県と和歌山県農業協同組合連合会の共同研究により作出したものです。今回は、これまでに分かった特性について紹介します。

2. 品種特性

(1) 開花及び生育

8月中旬は種の夏まき年内どり栽培では、「矢田早生」と同じく9月中旬から開花が始まり、種子低温処理した「きしゅううすい」より2週間以上早くなりました(表1)。

秋まきハウス栽培では、11、12節から開花が始まり、種子低温処理した「きしゅううすい」より8節程度低くなりました。

(2) 莢の品質

莢は「きしゅううすい」、「矢田早生」よ

り大きく、一莢粒数は「きしゅううすい」と同程度でした。むき実歩合はやや低いが、上物率は高くなりました(表1、図1)。

(3) 収量

8月中旬は種の夏まき年内どり栽培では、総収量は800kg/10a程度と多く、11月前半までに総収量の95%以上が収穫できました(図2)。ただし、10月どりを目的とする場合は、総収量は少なくなりますが、8月上旬は種が適当と思われました。

秋まきハウス栽培では、「きしゅううすい」と同様の栽培管理をおこなうと、初期収量は多いが、総収量は少なくなりました。

3. おわりに

これまでの成果からみると、「4-1-1-1-2」は莢が大きく初期収量が多いことから、夏まき年内どり栽培での有望系統として期待されます。今後は、露地夏まき年内どり栽培や、秋および冬まきハウス栽培を中心に、は種時期や栽植密度と収量、品質の関係等について調査をおこなう予定です。

(育種部 村上 豪完)

表1 夏まき年内どり栽培での開花、生育特性および莢品質

品種、系統	開花始め	収穫始め	開花節位	節数	一莢重(g)	一莢粒数	むき実歩合(%)	上物率(%)
きしゅう(無)	10/4	10/27	27.9	44.4	5.5	5.7	47.3	35.4
きしゅう(低温)	9/28	10/27	22.2	41.5	5.3	5.6	47.7	31.7
4-1-1-1-2	9/11	10/16	14.6	35.4	6.4	5.7	44.4	44.3
矢田早生	9/11	10/10	11.1	37.6	4.8	5.4	46.3	29.1

耕種概要： は種日 2000年8月14日

きしゅううすいは、2℃20日間の種子低温処理(低温)及び無処理(無)



図1 夏まき年内どり栽培での莢

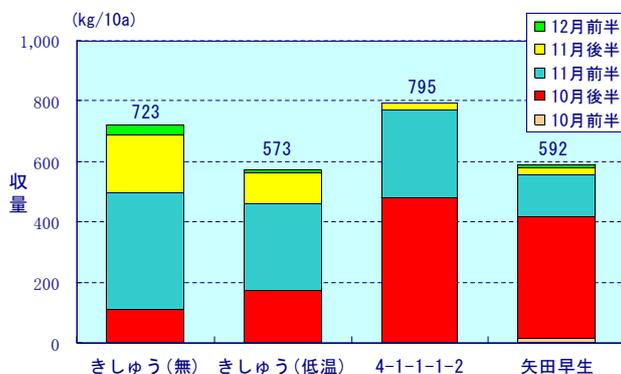


図2 夏まき年内どり栽培での時期別収量